

平成25年12月16日(月)
平成25年度 第8回
大阪府河川整備審議会

資料1-1

大和川水系石川ブロック 河川整備計画(原案)について(概要)

石川ブロック河川整備計画(変更原案)についての説明概要

■石川ブロックの主な特徴

(治水面)

○石川の治水目標は、大和川への受け渡し流量の制限により、時間雨量65ミリ程度(道明寺地点1,000m³/s)とした。

○平成22年6月に策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、流域内の各河川について治水目標及び治水手法に基づき、審議を行った結果、梅川上流、佐備川上流、石見川上流、加賀田川上流では「耐水型整備区間」を設定した。

(環境面)

○石川ブロックは、府内でも豊かな自然環境となっている。

○石川ブロックでは、取水堰等により、多くの水生生物の行動範囲が限定され易い状況であるが、その状況下でも取水堰を遡上している種も確認されている。

○河川空間利用については、石川では府営石川河川公園の利用、アドプト・リバー・プログラム等での清掃活動や生物研究活動を行っている。



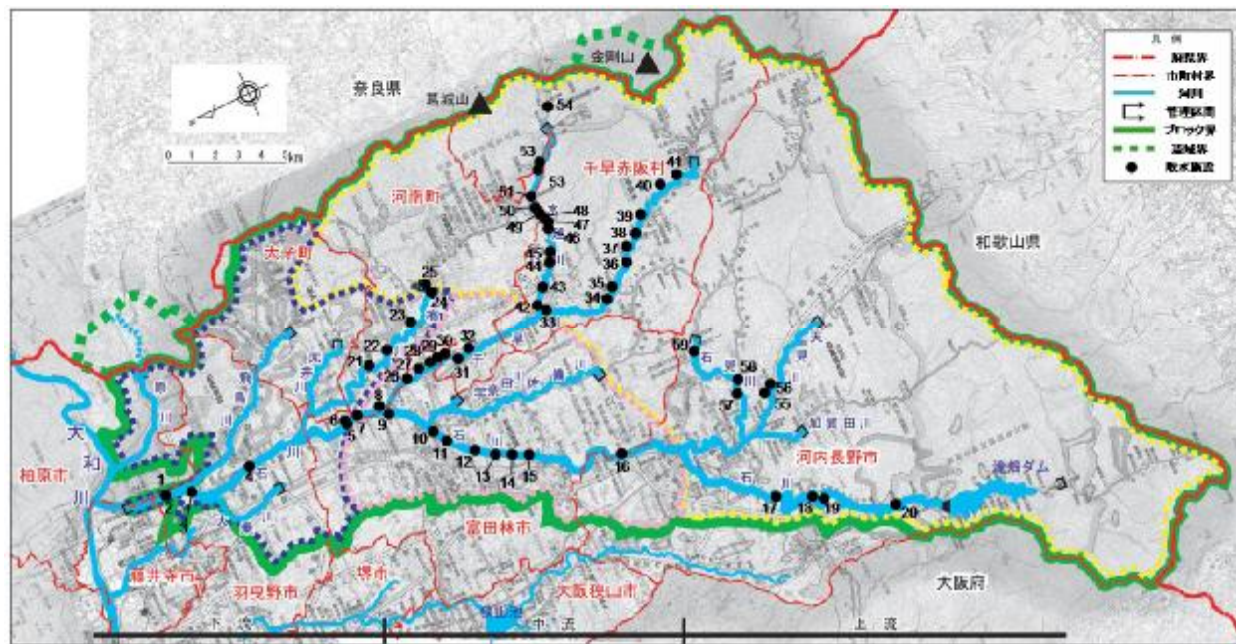
これまでの治水面の審議及び前回審議会の環境面の審議結果により、石川ブロックに特化した項目について説明。

前回審議会での委員指摘事項と対応方針

■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

1. 利水面(正常流量の確保)について

指摘事項	対応	本文の記載内容(P35)
<p>正常流量の確保について、井堰の統合であるとか、慣行水利を許可水利に切り替えるなど、どのようにしていくのか。</p>	<p>水利権のほぼ全てが慣行水利権であり、許可水利権に切り替わらない状況であるが、これからも関係者と協議を進める。</p>	<p>取水堰や落差工等の河川横断構造物の利用実態の把握に努め、利用実態のない取水堰の撤去や落差工の改善と併せて水域の連続性の確保に努めます。</p>



石川ブロック 取水施設位置図

前回審議会での委員指摘事項と対応方針

■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

2. 魚道設置(性能評価)について

指摘事項	対応
設置した魚道は機能しているのか。	今後は、魚道の性能に関する調査を行い、機能が保持されるよう適切な維持管理に努めます。



魚道(石川・嶋井堰)

前回審議会での委員指摘事項と対応方針

■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

2. 魚道設置(支川合流点の落差)について

指摘事項	対応	本文の記載内容 (P35)
支川合流点に落差は無いのか。その落差への対応はどのように考えているのか。	飛鳥川、千早川、佐備川、天見川の石川合流点付近に落差工があり、これらについては必要性、実現性に応じて設置する。	<p>取水堰や落差工等の河川横断構造物の利用実態の把握に努め、利用実態のない取水堰の撤去や落差工の改善と併せて水域の連続性の確保に努めます。</p> <p>石川で設置済みの魚道については、その機能が保持されるよう適切な維持管理に努めます。また、魚道が未設置の取水堰については、実現性、必要性、流域市町や地域住民の意見等より、総合的に魚道設置の検討を行います。</p> <p>また、石川の各支川については、石川本川・支川合流点の落差工の設置状況の調査、水生生物の生息状況の確認及び整備効果の検証を行います。</p>



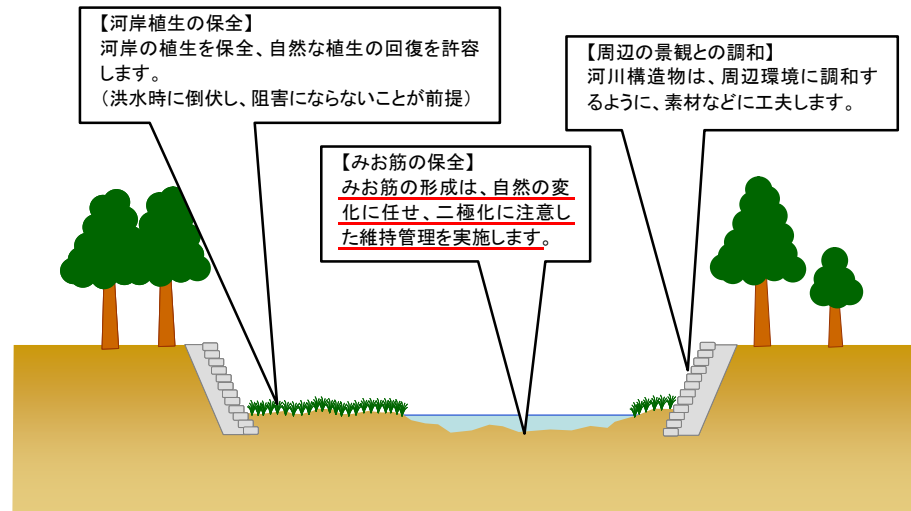
佐備川 石川合流点落差工

前回審議会での委員指摘事項と対応方針

■ 前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項と対応方針

3. 多自然川づくり(みお筋)について

指摘事項	対応	本文の記載内容(P17)
みお筋の形成、保全について、現状の評価を行い、その上で対応を考えるべきではないか。みお筋は、固定化するか。二極化の可能性が高いが、どのように整備するのか。	<p>改修時は平坦な河床は避け、凹凸がある状況とします。その後のみお筋の形成は、自然の変化に任せます。また、水衝部においては洗掘対策をあらかじめ実施した上で、みお筋の形成を自然の変化に任せます。</p> <p>維持管理する中で、土砂移動の傾向を十分に把握、必要性を検討し、必要性に応じて人的管理を実施する。(堆積土砂の撤去にあたっては、河床変動や湾曲部などの河川特性を踏まえ、河床を一律に平坦にするのではなく、みお筋等に配慮し、全て除去せず一部残すなど、自然環境などに配慮する。)</p>	みお筋の形成は、自然の変化に任せ、二極化に注意した維持管理を実施します。(図-1.7参照)



多自然川づくりイメージ図

第1章 第1節 流域及び河川の概要

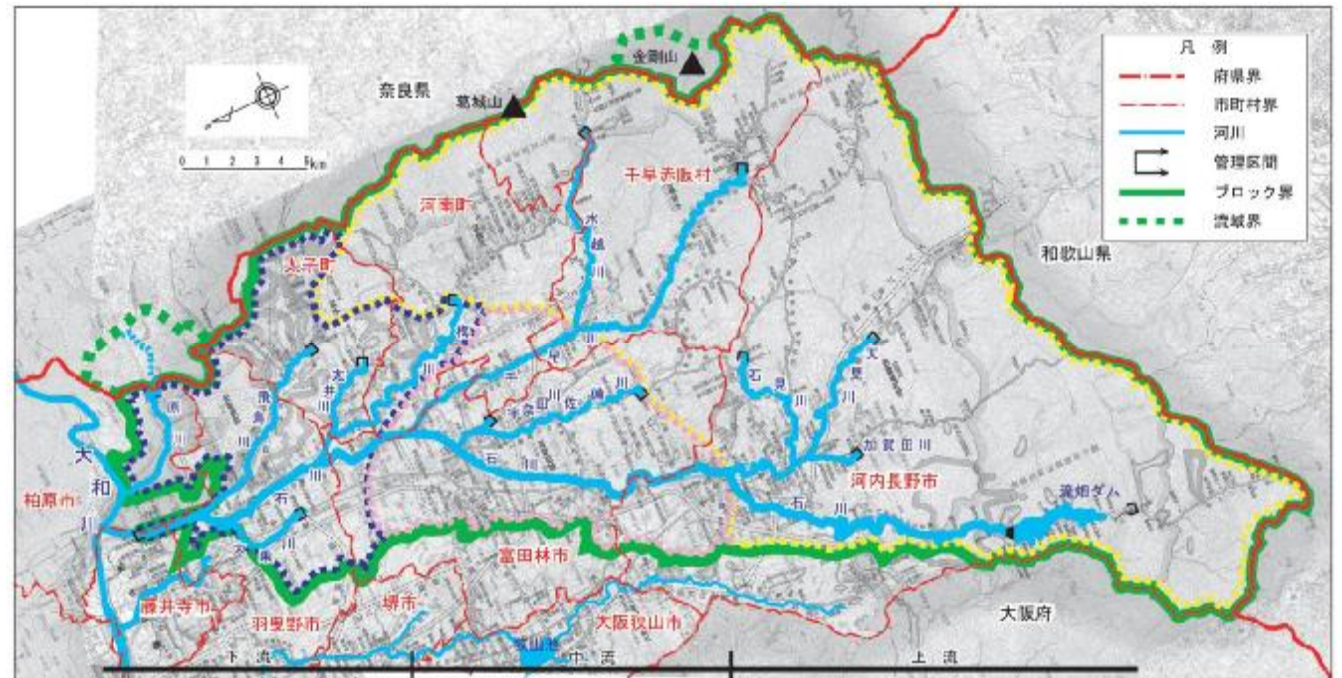
1. 流域の概要(P1)

石川ブロックは、大阪府と奈良県・和歌山県の境をなす金剛葛城山系に源を発し、南河内エリアの中心部を貫流して大和川と合流する一級河川石川とそれらの支川流域、奈良県香芝市西部の丘陵地に源を発し、奈良県との府県境である二上山北麓の山間部を貫流し、大和川に合流する一級河川原川で構成されます。

石川の流路延長は約36km(うち指定延長29.9km)、流域面積は約222km²で南大阪最大の河川であり、大和川に合流するまでに、天見川および佐備川、千早川、梅川、大乘川、飛鳥川の各支川が流入しています。

一級河川			河川延長 (km)	
1次	2次	3次		
石川			29.9	
	飛鳥川		5.5	
	大乘川		2.0	
	梅川		7.3	
		太井川		2.6
	千早川		13.6	
		水越川		5.7
	佐備川		6.3	
		宇奈田川		0.2
	天見川		7.5	
		石見川		4.5
		加賀田川		1.8
原川			3.7(5.6)	

※()内は奈良県域含む



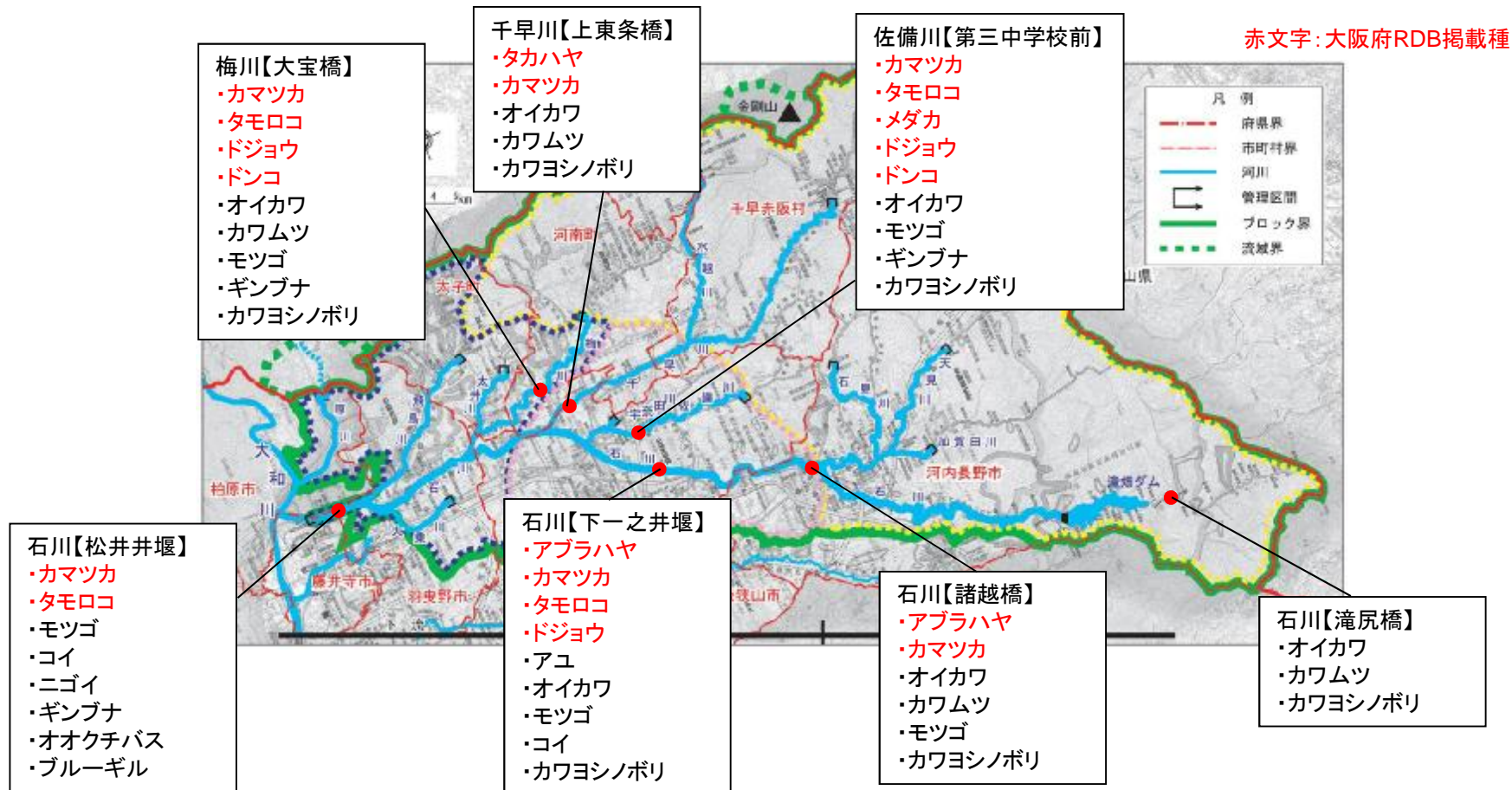
第1章 第1節 流域及び河川の概要

2. 流域の特性(P2)

(1) 自然環境特性(P3)

○石川ブロックの魚類は、平成14年～平成24年の調査で9科19種(在来種7科16種、外来種2科3種)の魚種の生息が確認されています。石川ブロック中流から下流部では、水たまりや水田水路などの止水域を好むメダカ、水田や河川敷の水たまりを産卵場とするドジョウなどの貴重種が確認されています。

○石川ブロック下流部では、コイやギンブナなど、湛水域や淀んだ水域を好む種が多く確認されています。上流部では、瀬と淵が一体となった多様な河川環境を必要とするアブラハヤやタカハヤの生息が確認されています。



第1章 第1節 流域及び河川の概要

3. 河川の特徴(P6)

(1) 石川上流部(P6)

石川上流部は、山間部を蛇行しながら流下しており、山地の樹林が川岸まで迫り河川と一体となった良好な河川環境を形成しています。河川は、瀬と淵が連続して出現し、変化に富む流れとなっています。川幅は約15~30m程度、河床勾配が約1/30~1/65程度であり、一部岩が露出しています。

最上流部には、滝畑ダムがあります。

天見川は、川幅が約20m程度、河床勾配が約1/200程度で、蛇行が多い河川となっています。石見川は、川幅が約10m程度、河床勾配が約1/60程度の河川です。沿川には、住宅地と農地が広がり、河岸に樹林が迫る区間もみられます。加賀田川は、川幅が約20m程度、河床勾配が約1/65程度の河川です。沿川には、住宅地と農地が広がり、河岸に樹林が迫る区間もみられます。



石川 汐滝橋付近



石川 滝畑ダム



天見川 喜多畑橋

第1章 第1節 流域及び河川の概要

3. 河川の特徴(P6)

(1) 石川中流部(P7)

石川中流部は、川幅は約30m~200m程度で、高橋より下流から川幅が広がります。河床勾配は約1/200~300程度であり、住宅地と田園地帯の中をゆるやかに蛇行する流れとなっています。また河道内は平瀬と取水堰による湛水域が形成され、部分的に形成された砂州には植物が繁茂しています。

佐備川は、川幅が約10~35m程度で、蛇行を繰り返しながら田園地帯を流下しています。河床勾配は約1/200~1/300程度となっています。

宇奈田川は、川幅が約10m程度、河床勾配が約1/750程度の河川です。沿川には、住宅地と農地が広がっています。



石川 金剛大橋付近



佐備川 三中橋付近



宇奈田川 宇奈田川橋付近

第1章 第1節 流域及び河川の概要

3. 河川の特長(P6)

(1) 石川下流部(P7)

石川下流部の石川橋から佐備川合流点は、川幅が約200m～350m程度と広く、特に、梅川合流点付近の川幅は約350m程度となっています。河床勾配は約1/400程度と緩く、ゆったりとした流れとなっています。また、取水堰が多くその湛水域となる区間が多く見られます。また、広い高水敷を利用して「あすか歴史の里」、「あすか花回廊」、「自然ゾーン」などを有する河川公園が整備され、特に「自然ゾーン」では、多様な自然環境が形成されています。千早川は、川幅が約15m～20m程度、河床勾配が約1/400～1/50程度の河川であり、取水堰や落差工などの横断構造物が多数あります。水越川は、川幅が約10m程度、河床勾配が1/20程度の河川であり、河道の蛇行がみられます。河道内には瀬や淵が交互にみられ、河岸に樹林が迫る箇所も多くみられます。梅川は、川幅が約20～30m程度、河床勾配が約1/200～1/400程度の河川です。流れは緩やかであり、河道内には砂州の形成もみられます。太井川は、川幅が約10m、河床勾配が約1/150～1/200程度の河川です。沿川には、住宅地が広がっています。

大乗川は、川幅が約20m程度、河床勾配が約1/500程度の河川です。周辺には住宅地が密集しており、都市河川の様相を呈しています。

飛鳥川は、川幅が約20m～30m程度、河床勾配が約1/200～1/280程度の河川です。改修済み区間では、環境に配慮された護岸が整備されています。

原川は、川幅が10m～20m程度、河床勾配が1/65～1/250程度の河川であり、西名阪自動車道より下流では周辺に住宅地が広がり、上流では山地が広がっています。



石川（玉手橋付近）



千早川（千早大橋付近）



水越川（楠木橋付近）



梅川（板屋橋付近）



太井川（太井川橋付近）



大乗川（橋付近）



飛鳥川（えびかづら橋付近）



原川（旭橋付近）

第1章 第4節 河川整備計画の目標

河川名	現状(P10)	課題(P10)	目標(P15)
石川	昭和37年に始まった石川築堤工事により低水護岸の整備、取水堰の整備、などにより、時間雨量50ミリ程度の降雨に対応した改修が完成。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量65ミリ程度(道明寺地点1,000m ³ /s)とする。
飛鳥川	平成9年に全体計画を策定し、時間雨量50ミリ程度の改修を進めている。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量65ミリ程度とする。
大乘川	昭和38年より改修事業に着手し、昭和42年に全体計画を策定し、昭和56年に時間雨量50ミリの改修が完成。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度とする。
梅川	昭和55年に策定した全体計画を策定し、時間雨量50ミリ程度の改修を進めている。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度とする。
太井川	時間雨量50ミリ程度の改修が完成。		当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度とする。

第1章 第4節 河川整備計画の目標

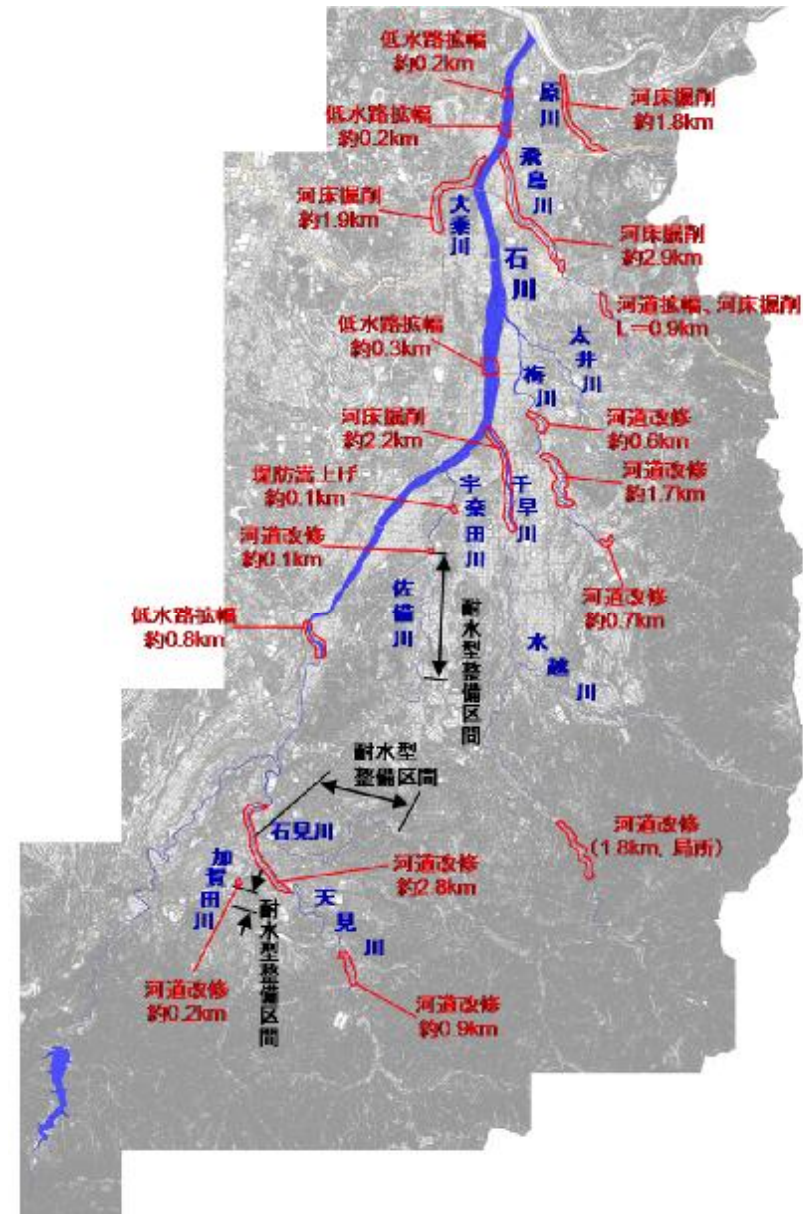
河川名	現状(P10)	課題(P10)	目標(P15)
千早川	平成5年に全体計画を策定し、石川合流点から下柳橋下流まで、時間雨量50ミリ程度の改修が完成。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度する。
水越川	計画に基づく治水整備は実施していない。		現状で治水目標レベルを達成済
佐備川	昭和55年に全体計画を策定し、石川合流点から三中橋まで、時間雨量50ミリ程度の改修が完成。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度する。
宇奈田川	計画に基づく治水整備は実施していない。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度する。
天見川	平成9年に全体計画を策定し、時間雨量50ミリ程度の改修を進めている。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量50ミリ程度する。
石見川	計画に基づく治水整備は実施していない。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量65ミリ程度する。
加賀田川	計画に基づく治水整備は実施していない。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度する。
原川	時間雨量50ミリ程度の改修が完成。	洪水に対する安全性を向上させる必要がある。	当面の治水目標は、時間雨量80ミリ程度する。

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

1. 洪水対策(P20)

整備対象区間

河川名	整備対象区間	整備延長
石川	玉手橋下流～玉手橋上流(1.2km～1.4km) 松井井堰～西名阪道上流(2.0km～2.2km) 河南橋上流～喜志大橋下流(6.9km～7.2km) 伏見堂橋上流～千代田橋下流(13.4km～14.2km)	約 1.50km
飛鳥川	石川合流点～近鉄南大阪線橋梁(0.0km～2.9km) 松本橋～春日橋下流(3.6km～4.5km)	約 3.80km
大乘川	石川合流点～近鉄長野線橋梁下流(0.0km～1.9km)	約 1.90km
梅川	中之橋下流～大宝橋上流(2.4km～3.0km) 新梅川橋～寺田橋上流(3.6km～5.3km) 和田橋～一級起点(6.4km～7.1km)	約 3.00km
千早川	石川合流点～下柳橋下流(0.0km～2.2km) 上東阪橋下流～千早赤阪村東阪地先(9.5km～11.3km) (局所改修)	約 2.70km
佐備川	三中橋～三中橋上流(1.8km～1.9km) 三中橋上流～本橋下流(1.9km～4.2km)	約 0.10km 約 2.30km
宇奈田川	宇奈田川橋上流(0.1km～0.2km)	約 0.10km
天見川	南海高野線橋梁下流～美加の橋下流(1.0km～3.8km) 高橋～清瀬橋(6.2km～7.1km)	約 3.70km
石見川	天見川合流点～南大門橋(0.0km～4.6km)	約 4.60km
加賀田川	加賀田橋上流(0.4km～0.6km) 加賀田橋上流～矢伏橋(0.6km～1.5km)	約 0.20km 約 0.90km
原川	原川橋～小松橋上流(0.0km～1.8km)	約 1.80km

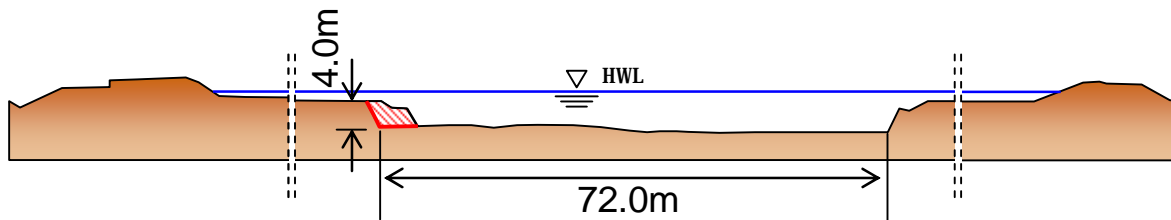


第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

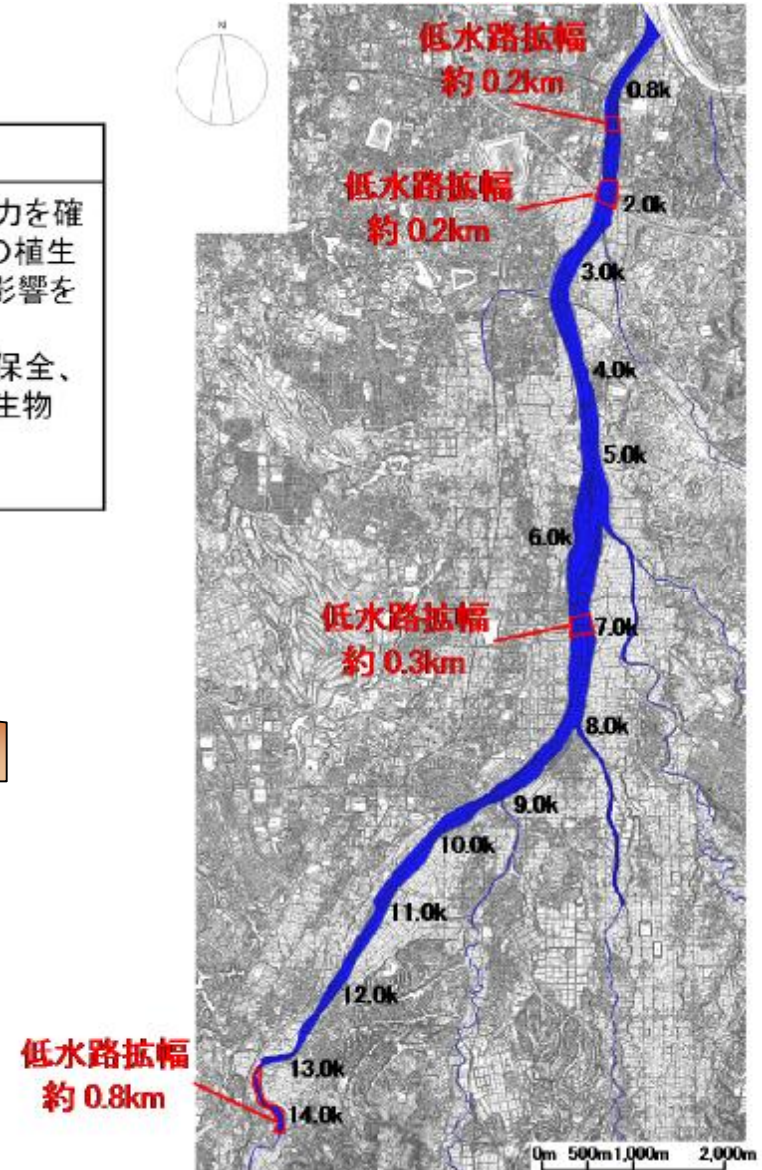
(1) 石川の洪水対策(P22)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
石川	玉手橋下流～玉手橋上流 1.2km～1.4km	河道拡幅(低水路拡幅)により流下能力を確保します。河道改修の際には、高水敷の植生や石川河川公園の河川空間利用への影響を極力小さくするよう配慮します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。
	松井井堰～西名阪道上流 2.0km～2.2km	
	河南橋上流～喜志大橋下流 6.9km～7.2km	
	伏見堂橋上流～千代田橋下流 13.4km～14.2km	



整備計画断面例(2.16km新石川橋地点付近)

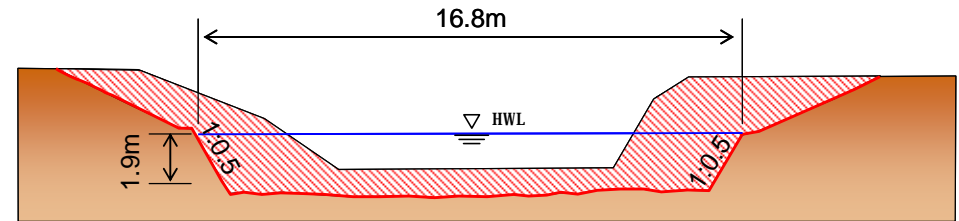


第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

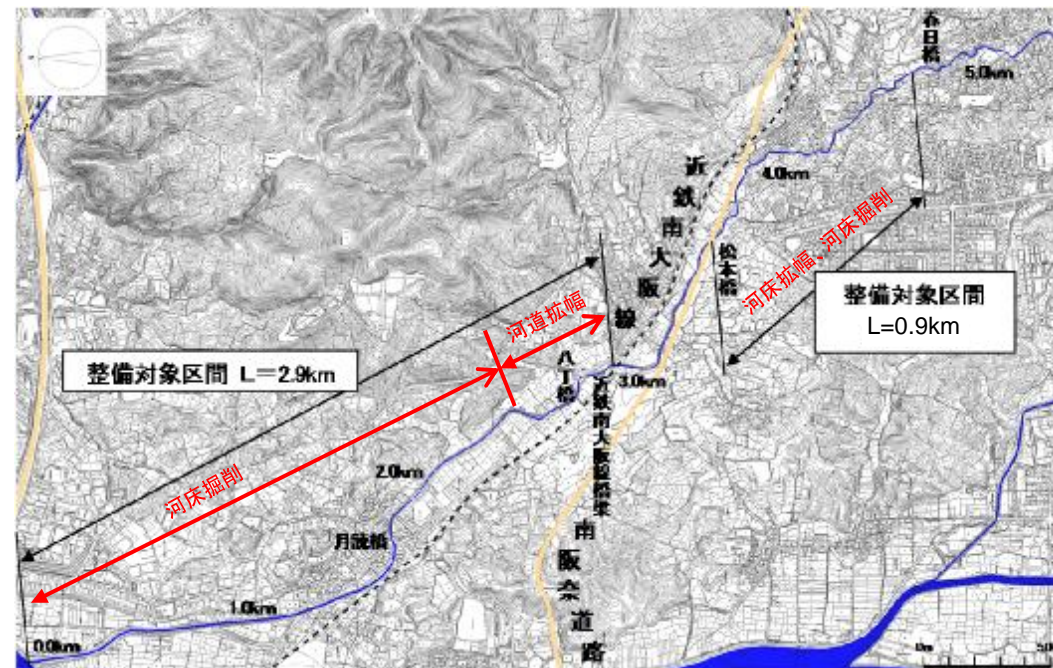
(2) 飛鳥川の洪水対策(P23)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
飛鳥川	石川合流点 ～近鉄南大阪線橋 梁 0.0km～2.9km 松本橋～春日橋下 流 3.6km～4.5km	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。



整備計画断面例(2.6km付近)



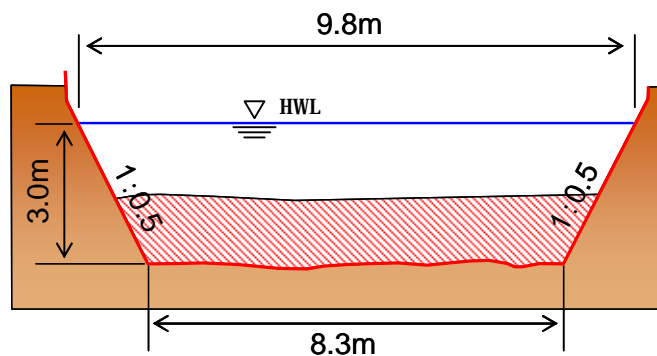
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(3) 大乘川の洪水対策(P24)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
大乘川	石川合流点 ～近鉄長野線橋梁 下流 0.0km～1.9km	河床掘削により流下能力を確保し、併せて河川に流入する水路の背水対策を実施します。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。



整備計画断面例(1.6km付近)



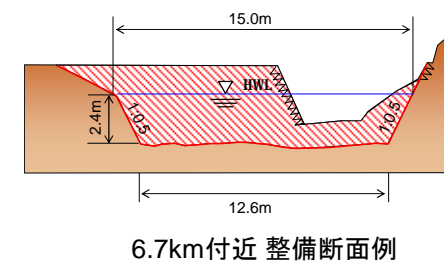
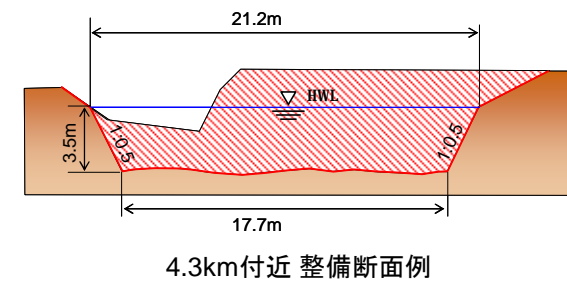
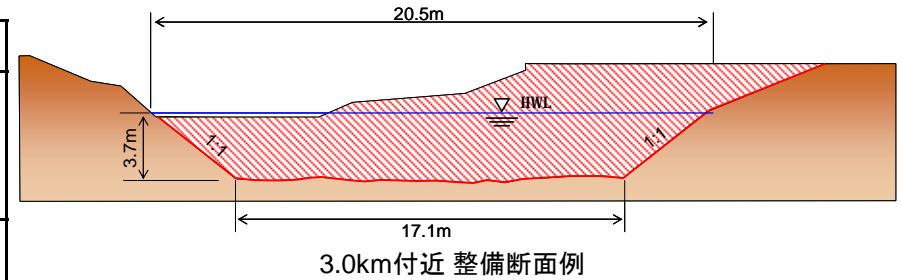
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(4) 梅川の洪水対策(P25)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
梅川	中之橋下流～大宝橋上流 (2.4km～3.0km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。
	新梅川橋～寺田橋上流 (3.6km～5.3km) 和田橋～島川橋 (6.4km～7.1km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。また、耐水型整備区間として、流域町と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組みます。なお、河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。なお、河道改修区間については、土砂移動の傾向を確認した後、具体的に設定します。



整備断面例 (3.0km付近,4.3km付近,6.7km付近)



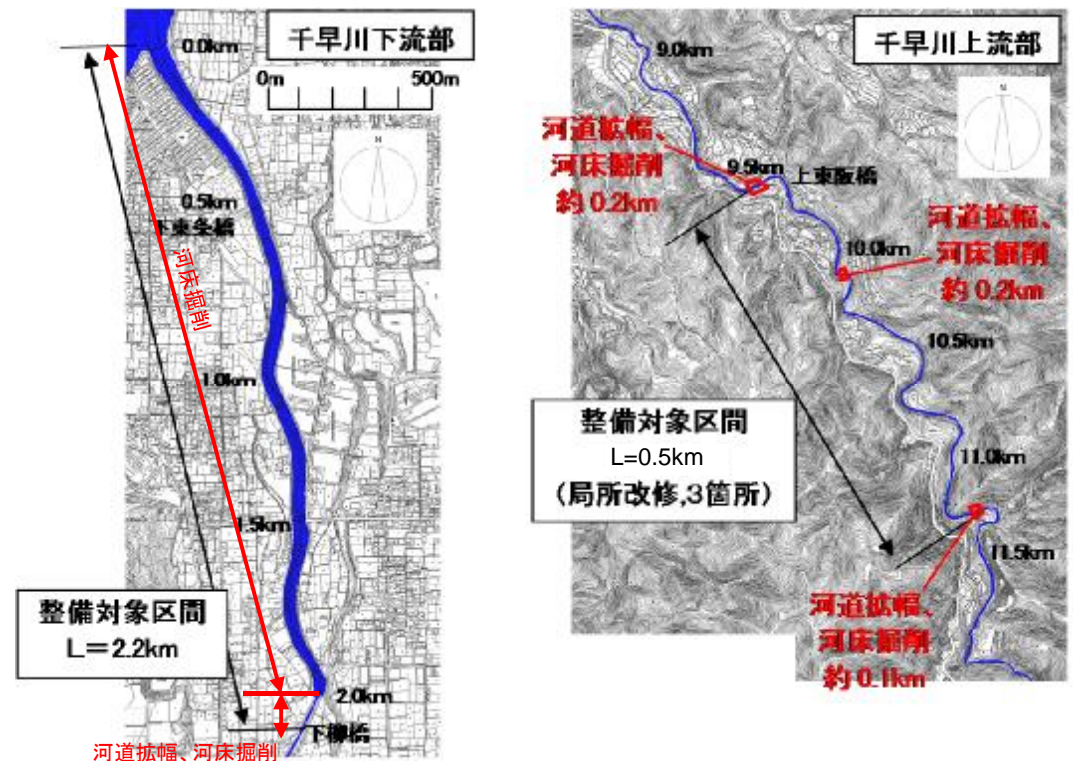
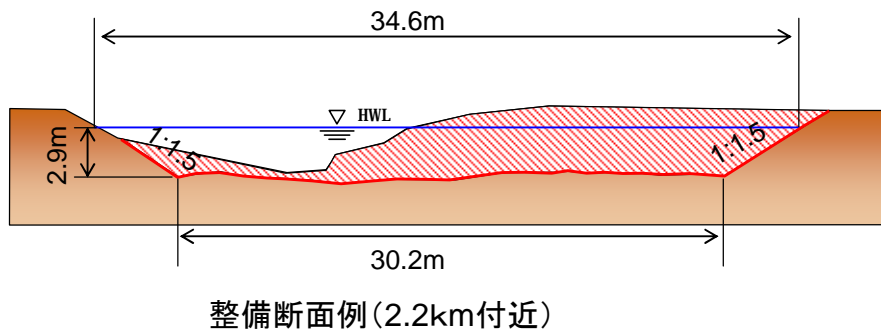
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(5) 千早川の洪水対策(P27)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
千早川	石川合流点～下柳橋下流 0.0km～2.2km 上東阪橋下流～千早赤阪村東阪地先 9.5km～11.3km(局所改修, 3箇所)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。



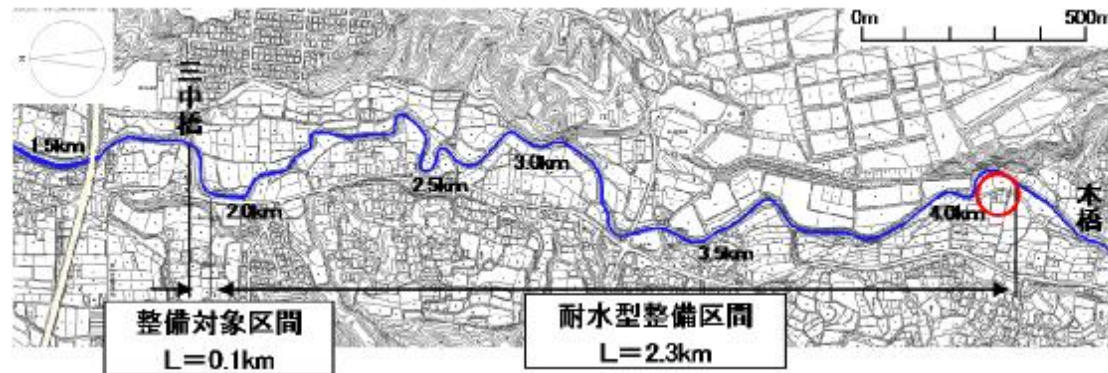
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

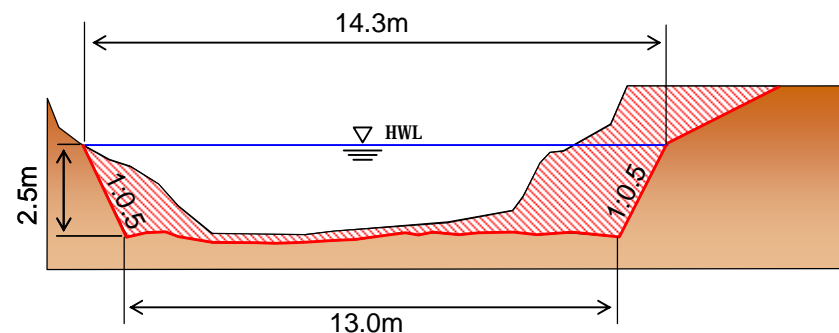
(6) 佐備川の洪水対策(P28)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
佐備川	三中橋～三中橋上流 (1.8km～1.9km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。
	三中橋上流～本橋下流 (1.9km～4.2km)	耐水型整備区間として、流域市と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組みます。



整備対象区間平面図



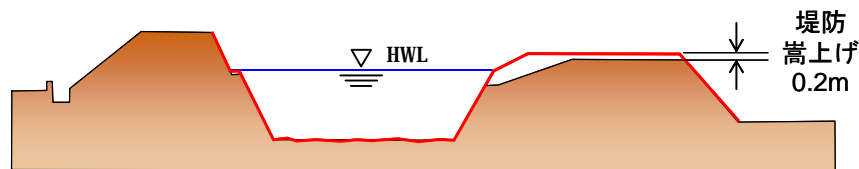
整備断面例(1.9km付近)

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

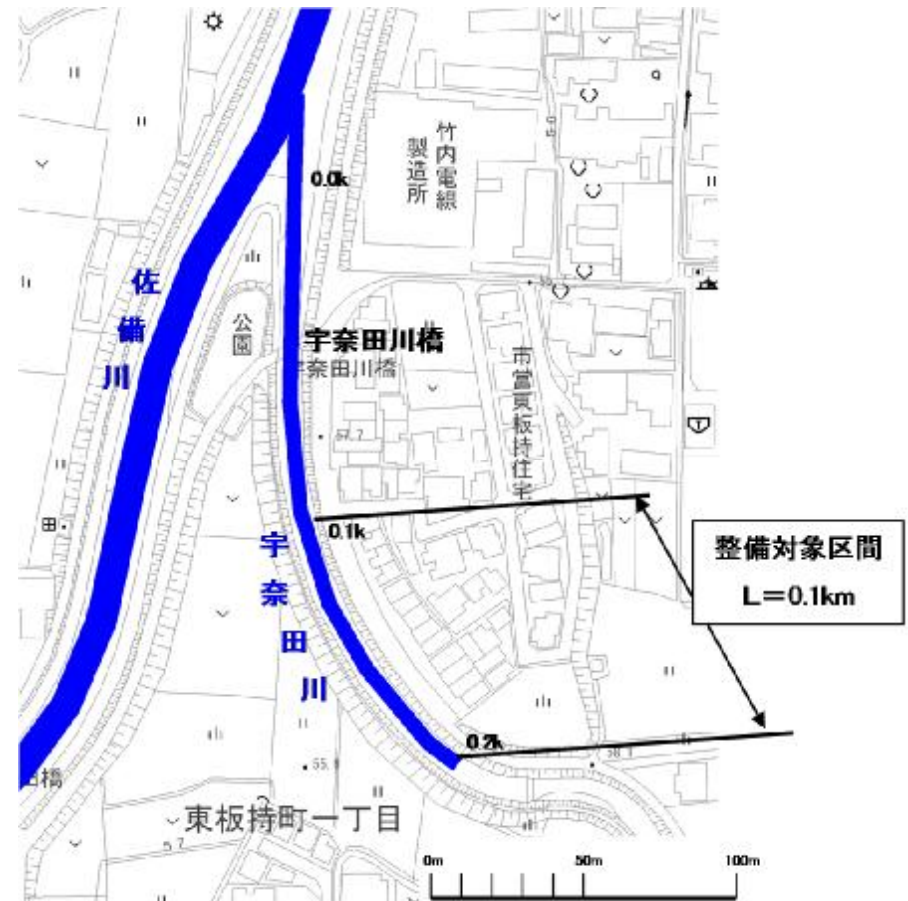
(7) 宇奈田川の洪水対策(P29)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
宇奈田川	宇奈田川橋上流 (0.1km~0.2km)	堤防嵩上げにより流下能力を確保します。



整備断面例(0.2km付近)



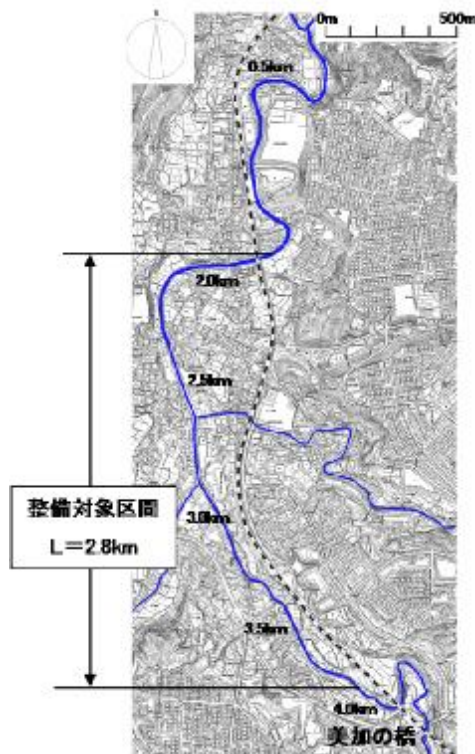
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

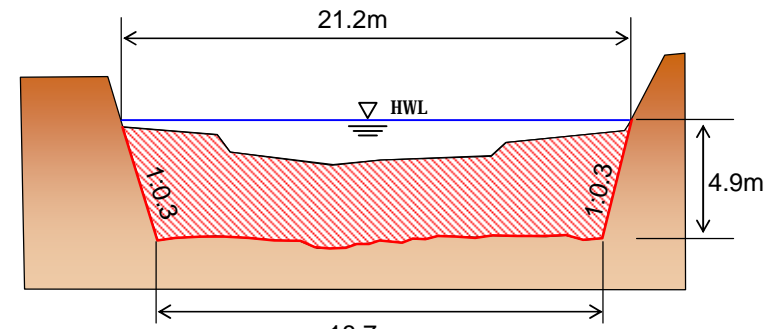
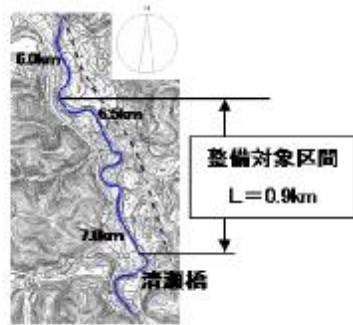
(8)天見川の洪水対策(P30)

整備区間と整備内容

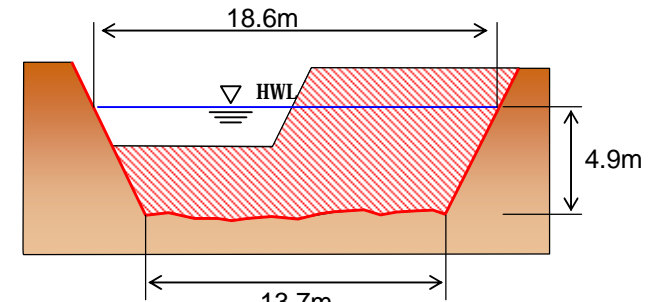
河川名	整備対象区間	整備内容
天見川	南海高野線橋梁下流 ～美加の橋下流 (1.0km～3.8km) 高橋～清瀬橋 (6.2km～7.1km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努めます。



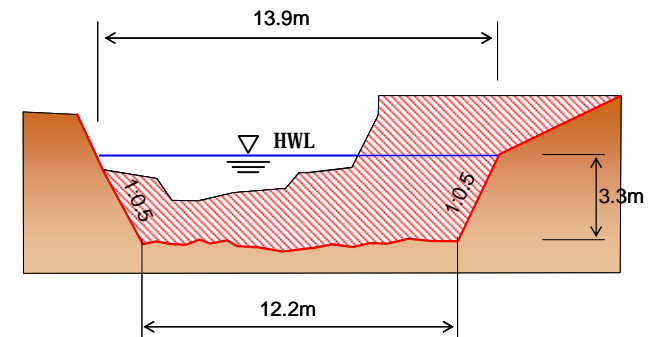
整備対象区間平面図



2.4km付近 整備断面例



2.8km付近 整備断面例



3.6km付近 整備断面例

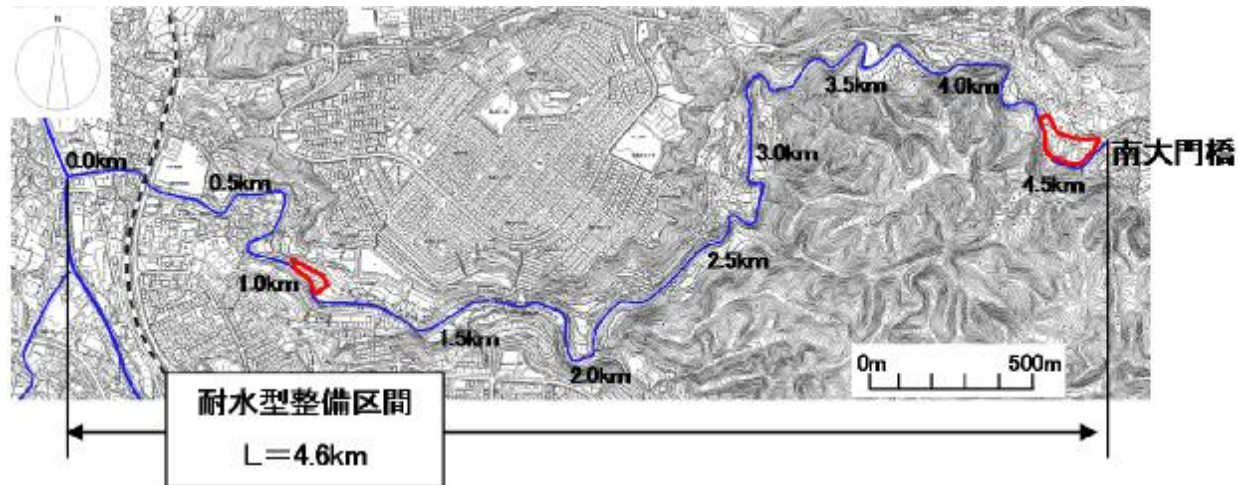
整備断面例 (2.4km付近,2.8km付近,3.6km付近)

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(9) 石見川の洪水対策(P32)

整備区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
石見川	天見川合流点～南大門橋 0.0km～4.6km	耐水型整備区間として、流域市と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組みます。



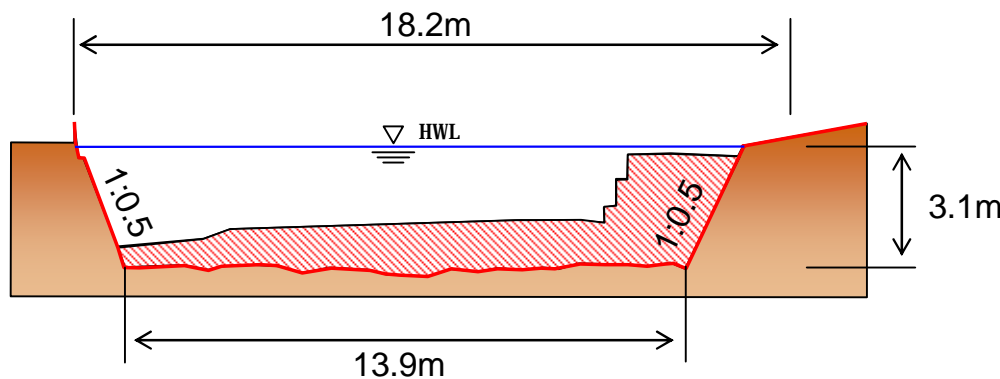
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

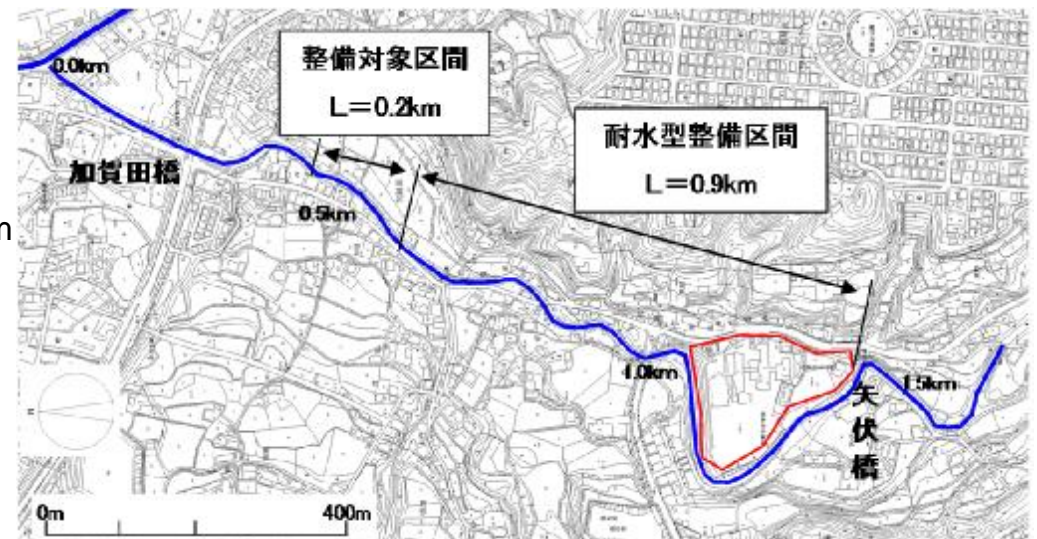
(10) 加賀田川の洪水対策(P33)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
加賀田川	加賀田橋上流 (0.4km~0.6km)	河道拡幅及び河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性の確保に努めます。
	加賀田橋上流～ 矢伏橋 (0.6km~1.5km)	耐水型整備区間として、流域市と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組みます。



整備断面例(0.4km付近)



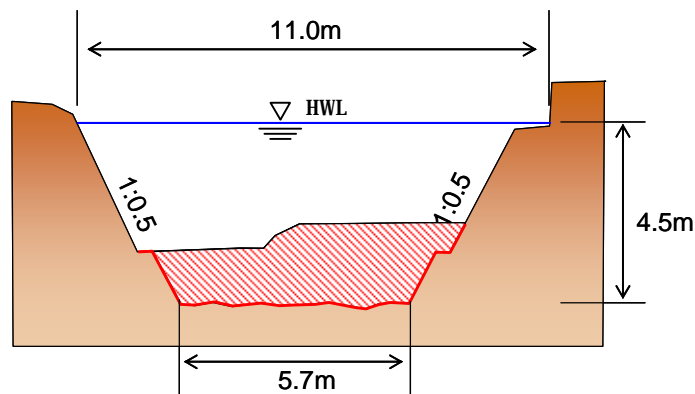
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

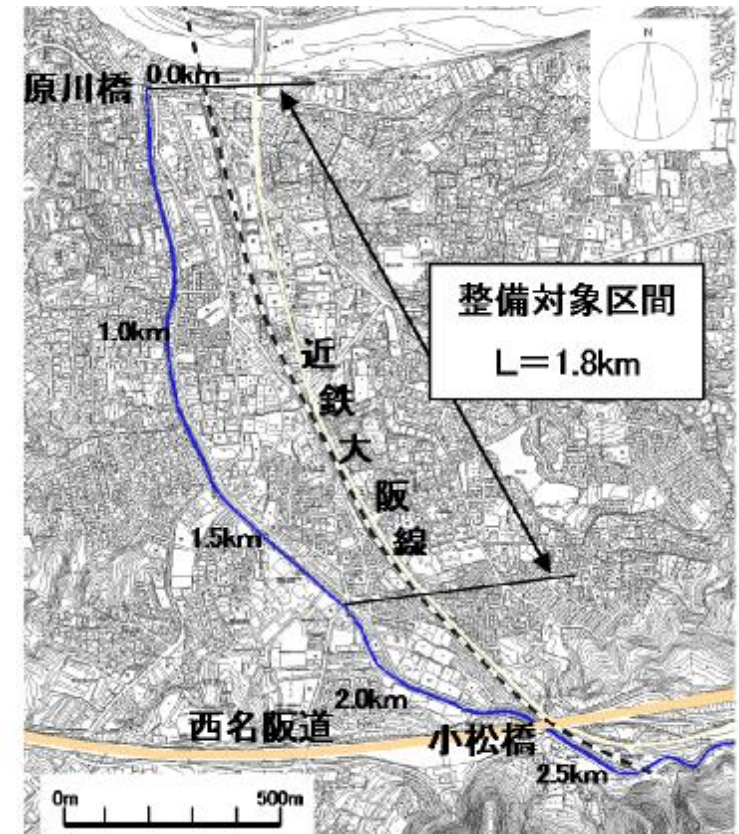
(11) 原川の洪水対策(P34)

整備対象区間と整備内容

河川名	整備対象区間	整備内容
原川	原川橋 ～小松橋下流 (0.0km～1.8km)	河床掘削により流下能力を確保します。 河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の 景観との調和に配慮し、上下流生物移動の連続性 の確保に努めます。



整備計画断面例(1.5km付近)



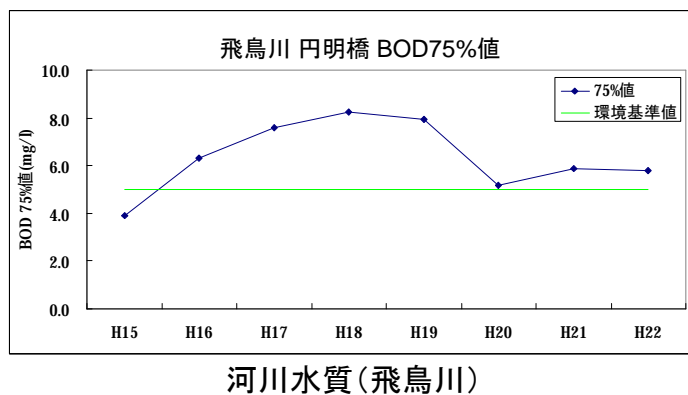
整備対象区間平面図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3. 河川環境の整備と保全 (P35)

(1) 水質

現状(P11)	目標(P16)	実施(P35・P36)
<p>大和川流域では、昭和40年代以降、水質の悪化が著しいものとなっていましたが、「大和川清流ルネッサンス」や「Cプロジェクト計画2006」、「大和川水環境改善計画」に基づく流域住民、国、流域自治体が連携した下水道整備をはじめとした取組みにより、水質の改善が進みました。近年では飛鳥川を除く各河川で環境基準を満足する水質になっており、今後も、水質の改善と良好な水質の維持に努める必要があります。</p>	<p>下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善に努めます。また河川で活動している地域住民やNPO等との連携し、河川美化、環境教育などに努めます。</p>	<p>環境基準を満足することはもとより、多様な生物の生息・生育環境を保全するため、流域市町村の環境部局における行政指導や下水道施設等による水質改善とともに、地域住民や学校、NPOと連携し、河川への生活排水による河川への負担軽減に向けた環境教育・学習の推進及び啓発活動等を進めることにより水質改善に努めます。</p>



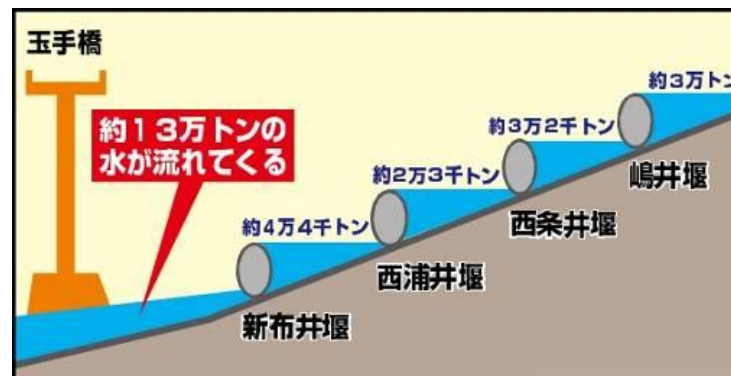
第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3. 河川環境の整備と保全 (P35)

項目	現状・課題(P12)	目標(P16)	実施(P35)
(2)空間利用	<p>石川下流部の新石川橋から高橋までの高水敷等を利用した石川河川公園では、羽曳野市の市民マラソン大会や富田林市民ふれあいまつり、アユすくいどり大会等が催されています。また、石川河川公園内に南河内サイクルラインが整備されているなど、多くの地域住民に利用され、地域のオアシス的な存在となっています。また広域避難地として防災拠点にもなっています。また石川ブロックでは、10の団体がアドプト・リバー・プログラムによる清掃活動や生物研究活動などを行っています。</p> <p>石川ブロックは、河川の水辺空間を活用した地域活動が盛んに行われていますが、近年では、取水堰操作に伴う水量急増による水難事故も発生しており、利用者の安全確保が課題となっています。</p>	<p>河川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、関係機関や地域住民と連携し、散策路や川に近づくための階段等の整備を図るなど、川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成に努めます。</p>	<p>河川環境の整備と保全に関しては、それぞれの流域が持つ歴史・文化・景観や多様な自然環境に配慮し、各地域の特徴を行かした河川整備を行います。</p> <p>また、河川整備を実施する際には、整備区間の現地状況及び多自然川づくりの必要性を検討の上、瀬と淵、水際植生の保全・再生を行います。</p> <p>地域住民が中心となった「アドプト・リバー・プログラム」等の活動が流域全体に広がり、多様な主体による流域全体での取り組みが展開するように努め、地域と行政の連携を図り、地域の望む魅力ある空間づくりを行います。</p> <p>アクセスの乏しい河川では、安全対策と利用ルールを策定し、親水階段の設置等、アクセスの改善を図ります。</p> <p>石川河川公園利用者への水位情報に関する情報提供や警報装置の適切な運用、出前講座の実施により、水難事故への対策を実施します。</p>



飛鳥川 月読橋上流親水階段



石川水難事故イメージ図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3. 河川環境の整備と保全 (P35)

(3) 自然環境・景観・親水性(石川ブロック全体)

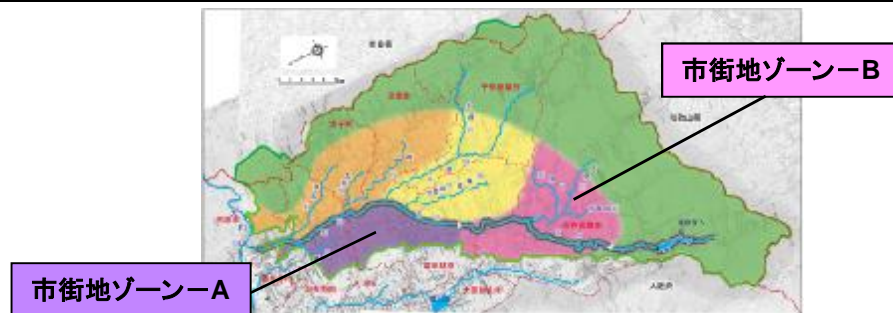
現状・課題(P13)	目標(P16~P17)	実施(P36)
<p>○自然環境</p> <p>石川ブロックでは、取水堰等の落差により、多くの生物の行動範囲が限定され易い状況ではありますが、その状況下でも取水堰を遡上している種も確認されています。石川では、これまで下流でのみ確認されていた回遊性のアユが、平成24年の調査結果より、広範囲で確認されています。</p> <p>このことから取水堰に設置されている魚道については、その機能を今後とも維持していく必要があります。また、魚道が未設置の取水堰や落差工は、河川における連続性の確保について検討する必要があります。</p> <p>石川や千早川のような河道改修を実施した箇所でもカマツカが確認され、さらに、石川上流や支川上流でもゲンジボタルが確認されており、石川ブロック全体として、良好な自然環境が形成されています。</p> <p>石川ブロックでは、河道改修により自然環境に影響を与える恐れのある箇所については、生息・生育環境の復元、未改修の箇所については、自然環境の保全が必要となっています。</p> <p>○景観</p> <p>石川下流部では、川幅が広く、高水敷が広く整備されており、開放的な景観となっています。また、石川(あすかプラン)に基づき、南河内の自然、歴史、風土に根ざした総合的な水辺環境の整備が行われています。大乗川では、住宅街の中の貴重なオープンスペースとなっています。</p> <p>石川中上流部、天見川下流部、石見川、加賀田川では、農地の合間を流れる豊かな田園都市の風景となっており、その奥には美しい山並みが広がっています。</p> <p>飛鳥川、梅川、太井川では、歴史的建造物がゾーン内に点在しており、特に飛鳥川沿いには、竹内街道が平行して通っており、歴史の色濃いゾーンとなっています。</p> <p>千早川下流部、佐備川、宇奈田川では、集落を取り巻く山地と棚田が豊かな田園風景となっており、その奥には美しい山並みが広がっています。</p> <p>石川上流部、千早川中上流部、水越川、天見川上流部では、農地丘陵地の風景となっており、その奥には金剛生駒葛城山系の美しい山並みが広がり、河川付近では溪谷の美しい景観となっています。</p>	<p>石川ブロックの河川環境の整備と保全に関しては、それぞれの地域が持つ歴史・文化・景観や多様な自然環境に配慮し、各地域の特徴を活かした河川整備、維持管理を行います。</p> <p>また、魚類や水生生物の生育状況の確認及び農業関係機関との協議により、適正な水量のみの取水による河川の維持流量確保、河川横断構造物の改修など、河川の魚類や水生生物のより適切な生育環境の配慮に努めます。</p> <p>また、生物多様性の保全のため、外来種の繁茂・繁殖等により生態系に悪影響を及ぼすような場合は、外来生物法に基づき関係機関と連携して対応に努めます。</p>	<p>石川ブロックでは、ゾーンごとの自然環境、景観特性に配慮した河川環境の整備、保全を行います。</p>

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3. 河川環境の整備と保全 (P35)

(3) 自然環境・景観・親水性(市街地ゾーン-Aおよび市街地ゾーンB)

現状・課題(P13)	目標(P17)	実施(P36)
<p>○自然環境</p> <p>石川ブロックでは、取水堰等の落差により、多くの生物の行動範囲が限定され易い状況ではありますが、その状況下でも取水堰を遡上している種も確認されています。石川では、これまで下流でのみ確認されていた回遊性のアユが、平成24年の調査結果より、広範囲で確認されています。</p> <p>このことから取水堰に設置されている魚道については、その機能を今後とも維持していく必要があります。また、魚道が未設置の取水堰や落差工は、河川における連続性の確保について検討する必要があります。</p> <p>○景観</p> <p>石川下流部では、川幅が広く、高水敷が広く整備されており、開放的な景観となっています。また、石川あすかプランに基づき、南河内の自然、歴史、風土に根ざした総合的な水辺環境の整備が行われています。大乗川では、住宅街の中の貴重なオープンスペースとなっています。</p> <p>石川中上流部、天見川下流部、石見川、加賀田川では、農地の合間を流れる豊かな田園都市の風景となっており、その奥には美しい山並みが広がっています。</p>	<p>石川下流エリア(市街地ゾーン-A)では、石川公園との調和を図り、環境学習の場としての活用、多種多様な生物が生息、生育する川づくりを目指します。</p> <p>大乗川(市街地ゾーン-A)では、周辺環境と調和した景観の形成を目指します。</p> <p>石川中流エリア(市街地ゾーン-B)では、多種多様な生物が生息、生育する川づくり、川沿いの樹林の保全を目指します。</p> <p>天見川下流エリア(市街地ゾーン-B)川沿いの樹林の保全を目指します。</p>	<p>石川下流エリア(市街地ゾーン-A)では、石川河川公園との調和を図り、環境学習の場としての活用、多種多様な生物が生息、生育する川づくりを行います。</p> <p>大乗川(市街地ゾーン-A)では、周辺環境と調和した河川環境整備を行います。</p> <p>石川中流エリア(市街地ゾーン-B)では、多種多様な生物が生息、生育する川づくりを行い、川沿いの樹林を保全します。</p> <p>天見川下流エリア(市街地ゾーン-B)では、川沿いの樹林を保全します。</p>



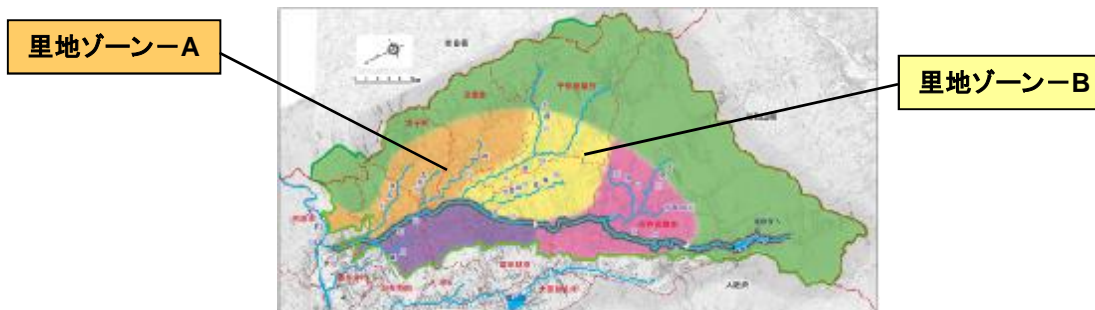
石川ブロックゾーン図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3. 河川環境の整備と保全 (P35)

(3) 自然環境・景観・親水性 (里地ゾーン-Aおよび里地ゾーンB)

現状・課題(P13)	目標(P17~P18)	実施(P36)
<p>○自然環境 石川ブロックでは、取水堰等の落差により、多くの生物の行動範囲が限定され易い状況ではありますが、その状況下でも取水堰を遡上している種も確認されています。石川では、これまで下流でのみ確認されていた回遊性のアユが、平成24年の調査結果より、広範囲で確認されています。</p> <p>このことから取水堰に設置されている魚道については、その機能を今後とも維持していく必要があります。また、魚道が未設置の取水堰や落差工は、河川における連続性の確保について検討する必要があります。</p> <p>○景観 飛鳥川、梅川、太井川では、歴史的建造物がゾーン内に点在しており、特に飛鳥川沿いには、竹内街道が平行して通っており、歴史の色濃いゾーンとなっています。</p> <p>千早川下流部、佐備川、宇奈田川では、集落を取り巻く山地と棚田が豊かな田園風景となっており、その奥には美しい山並みが広がっています。</p>	<p>飛鳥川(里地ゾーン-A)、梅川(里地ゾーン-A)、太井川(里地ゾーン-A)では、歴史性を演出した河川空間整備、ホタル等の生息環境の保全を目指します。また、飛鳥川では、大和川水環境改善計画に基づき、水環境改善を目指します。</p> <p>千早川下流(里地ゾーン-B)、佐備川(里地ゾーン-B)、宇奈田川(里地ゾーン-B)では、棚田等の周辺景観と一体となった河川景観の保全、住民が水と緑にふれあえる場づくりを目指します。</p>	<p>飛鳥川(里地ゾーン-A)、梅川(里地ゾーン-A)、太井川(里地ゾーン-A)では、歴史性を演出した河川空間整備、ホタル等の生息環境を保全します。</p> <p>千早川下流(里地ゾーン-B)、佐備川(里地ゾーン-B)、宇奈田川(里地ゾーン-B)では、棚田等の周辺景観と一体となった河川景観を保全します。また、住民が水と緑にふれあえる場づくりを行います。</p>



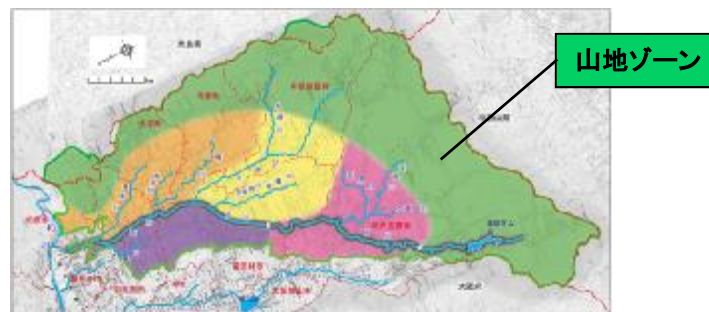
石川ブロックゾーン図

第2章 第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

3. 河川環境の整備と保全 (P35)

(3) 自然環境・景観・親水性 (山地ゾーン)

現状・課題(P13)	目標(P18)	実施(P36)
<p>○自然環境 石川上流や支川上流でもゲンジボタルが確認されており、石川ブロック全体として、良好な自然環境が形成されています。</p> <p>○景観 石川上流部、千早川中上流部、水越川、天見川上流部では、農地丘陵地の風景となっており、その奥には金剛生駒葛城山系の美しい山並みが広がり、河川付近では渓谷の美しい景観となっています。</p>	<p>石川上流エリア(山地ゾーン)、千早川(山地ゾーン)、では、多種多様な生物が生息、生育し、キャンプ場など自然に触れ合える場の保全を目指します。</p> <p>天見川上流(山地ゾーン)では、多種多様な生物が生息、生育する川づくりを目指します。</p>	<p>石川上流エリア(山地ゾーン)、千早川(山地ゾーン)、では、多種多様な生物が生息、生育し、キャンプ場など自然に触れ合える場を保全します。</p> <p>天見川上流(山地ゾーン)では、多種多様な生物が生息、生育する川づくりを行います。</p>



石川ブロックゾーン図